

天

上から差し込む光の如き響き

笙演奏家

東野珠実



とうのたまみ〈高崎市出身〉

国立音楽大学作曲学科首席卒業。慶應義塾大学大学院政策メディア研究科修了。文化庁舞台芸術創作奨励特別賞、日本文化芸術奨励賞等、受賞。音大在学中より芝祐靖らに雅楽を師事。坂本龍一、山下洋輔らから招聘を受け、創作・演奏を通じジャンルを超えた活動を展開。平成30年より、国立劇場雅楽・声明専門委員を務める。

管弦楽のルーツは 雅楽にあり

——千三百年の歴史がある雅楽は「世界最古のオーケストラ」とも言われるそうですね。

雅楽は、古代日本の神道系の歌舞に、アジア大陸から伝来した音楽と舞が加わり、寺社の儀式や貴族社会の宴の場を中心に発展してきました。

西洋のオーケストラ音楽のことを管弦楽というのは、雅楽の管楽器、弦楽器（箏・琵琶）、打楽器（鞆鼓、太鼓、鉦鼓）という構成に由来します。

明治期に西洋音楽が入ってきたとき、管弦という言葉を当てたのですから、雅楽はヨーロッパを先取ること千年の歴史を重ねたオーケストラの起源と言えましょう。クラシック音楽の響きに慣れ親しんだ皆様こそ、雅楽という音の宇宙に触れていただきたいですね。

——「音の宇宙」という言葉は、雅楽の世界観にぴったりですね。

笙は天から降り注ぐ光、箏は地に生きたる生き物の声、龍笛が空を舞う竜を象徴するといわれ、古来、音楽で宇宙の調和を表すとされます。

雅楽は、これら器楽を中心とした管絃、舞を伴う舞楽、国風歌舞という日本固有の古代歌謡を基にした歌舞の三つの分野の総称です。

——全身で音を聴く、音の肌触り。目には見えない、壮大なものを感じますね。

私がそれを実感したのは2015年、種子島宇宙芸術祭プレ公演でした。このとき、波の浸食で造られた千座の岩屋という洞窟内で演奏しましたが、笙の音は波の音に負けませんでした。負けるどころか、洞窟内の響きは洞窟そのものが楽器と化したようで、更に笙の呼吸と波の呼吸が重なり、神や自然と対峙するための音楽として古



吹いても吸っても音が出る笙は、呼吸そのものが音になる

呼吸の延長上にある 楽器、笙

——笙とは、どんな楽器でどんな魅力があるのでしょうか。

頭と呼ばれるところに差し込まれた十七本の竹それぞれに付属する金属のリードが振動し、空気を揺らして生まれる音の波が共振・増幅します。

そして、笙の特徴は吹いても吸っても音が出るということです。呼吸そのものが音になり、肉体の延長上にある楽器、生きている楽器とも言えます。

——奏者の方の呼吸がそのまま音になる、ということですね。

息の様子を伝える楽器、まさに奏者の生き様です(笑)。吹ききつていない息は吸えない、吸ってないものは吐けない。緊張していると、息切れ状態になりますから、楽器を通じて自身を思い知らされます。

来、雅楽が存在すること、雅楽は宇宙に通ずるスケール感であることを実感しました。

伶楽舎の活動と公演

——東野さん所属の伶楽舎は、海外での公演も精力的に行っていますね。

ヨーロッパ、アメリカを始め、海外の方々は大変敬意をもって受け止めてくださいます。やはり、千年の継続の実績ですね。雅楽は現代の私達が一時的にお預かりしている日本の宝物だと思います。千年の時空を超えて驚きや喜びを共にできることは、無形文化財としての雅楽の真骨頂です。

——高崎公演の演目についてご紹介ください。

前半の舞楽は、改元と劇場開館を祝う演目をそろえました。「賀殿」は古来、新築のお祝いに演奏されるため、こけら落としに相応しい一曲です。「青海波」は、日本を代表する文様の語源とされる名曲で、波の象徴する永遠性、平穏な世が続くことへの願いを表す寿ぎの舞です。源氏物語で頭中将と光源氏の二人が舞を披露するシーンで有名ですが、豪華な青海波の衣装は、今年、京都井筒装束店により製作されたものです。新調の絹の光沢、色彩の輝きも併せてご堪能ください。「蘭陵王」は、金色に輝く面と

また、指揮者のいない雅楽は、息づかいのハーモニー。奏者は、互いの息の状況、音の膨らみ、勢いを繊細にやり取りしているのです。これはクラシック音楽を学んでいたときと決定的に違う音楽観でした。

雅楽では、各楽器のパートリーダーを音頭と言います。音頭を取るの音頭です。音頭が音楽の流れを牽引しつつ、各人が状況に応じた演奏をしながら構成される合奏の姿は、日本らしい社会性、日本人の思想が反映していると思います。

——笙の音は、頭の奥までジーンと伝わってくるような感覚を覚えます。

えもいわれぬ美しい響きは、豊かな倍音によるものです。

実は、笙の音色はスピーカーで再現することがほぼ不可能です。笙の音色は超音波の域に到達するだけの情報量をもっているからです。人間の可聴域は20ヘルツ〜20キロヘルツですが、笙の高周波は60キロヘルツ以上。CDで扱える標準音域は44.1キロです。マイクでは捉えきれない情報があるので。

——可聴域を超える音波は、人間にどのように感じられるのでしょうか。

私は肌触りという言い方をしていますが、実際に物理的な波があるわけですから、全身で感知して知覚していると言えるでしょう。人間が超音波

毛縁袴装束が印象的な勇壮な舞です。後半の「露台乱舞」は、殿上人の和やかな祝宴を模して芝祐靖先生によって構成された組曲です。王朝時代、宮中公式行事の後には華やかな宴の席が設けられたと言われます。本公演は、その時系列に沿った特別なプログラムで当時の雅な光景が蘇ります。

——高崎芸術劇場への期待、お客様へのメッセージをお願いします。

劇場誕生は大変喜ばしく、高崎出身の音楽家として、数十年の悲願、念願をいよいよ形にしてくださいという感があります。我々は海外の著名なコンサートホールやオペラ劇場でも公演を行っていますが、高崎の音楽環境は国際的に見ても高いレベルにあると思います。高崎が文化面で投資されたものは、市民の方々に大いなる財産として浸透していますね。私が音楽家として今在りますのも、幼少の頃から文化芸術の薫りが日常にあったからこそ。音楽センター時代から質の高い劇場体験を享受してきましたから、更に新しい出会いの場が生み出され、未来の可能性を感じます。

——これからも洋の東西を両輪に据えて、高崎ならではの舞台を創造し、世界に向けて高崎の精神を発信してゆければ何よりとご期待申し上げます。

——ありがとうございました。益々の活躍を祈念しております

東野さんに聴く Q & A

音楽との出会いはいつ頃ですか？

三歳からピアノを始めましたが、音楽を創造する原体験は小、中学校の活動でした。特に学級歌の作曲では、自分の歌が皆のものになる喜びを得ました。高校時代、作曲の道に進むことを決意したとき、日本の音楽家として国際舞台に立ちたいと考えました。

日本人の音楽家として、世界に目を向けた動機は？

当時から、高崎に溢れていた音楽が国際的だったからだと思います。群響の存在ははかり、音楽センターでは様々なジャンルの名だたる音楽家の演奏に接していましたので、海外の方に納得して頂ける日本人の音楽を身につけることが自分の目標でした。

体調管理はどうされていますか？

少々体調が悪くても、笙のお稽古が終わる頃には活性化して、体調が回復します。笙は「吹いて吸う」生理にならった演奏法ですから健康的なのです。

通常、呼吸は一分間に15回位。深呼吸でも12回位ですが、笙の場合、ひと呼吸が約6秒で一分間に10回です。深くゆっくりとしたリズムに体が同調し、聴いている方もリラックスして眠くなる(笑)。笙の響に含まれる超音波の作用も伴って、演奏会の後は奏者も聴衆も元気になる。脳波を検証したところ、肉体的にはリラックス状態が、一方、頭は活性化している状態が証明できました。古代の知恵とも言える音楽療法ですね。



高崎芸術劇場開館記念 雅楽 伶楽舎
【日時】2019年11月17日(日)15:00開演 【会場】高崎芸術劇場 大劇場
【料金】S席5,000円 A席4,000円 B席3,000円 U-25(B席)1,500円

雅楽 伶楽舎

芝祐靖(2017年文化勲章受章)氏によって1985年創立された雅楽のプロ楽団。古典雅楽を基礎に、古代楽器の復元演奏、現代音楽の創造、教育分野における啓蒙の四つの柱で広く活動を行う。芝氏は八百年続く楽家に生まれ、龍笛・琵琶の名演奏家として活躍。平成天皇ご成婚時の祝典音楽はじめ、東大寺開眼供養記念式典(昭和55年)での伎楽の再興や、子どものための雅楽作品の創作上演など多岐にわたる取り組みを行った。
<https://reigakusha.com/>

高崎芸術劇場

能舞台

お披露目公演

高崎芸術劇場 スタジオシアター

2020 2/15(土) 14:00開演

演目／能「翁」(観世流) 観世清和(翁)、野村萬斎(三番叟)

狂言「二人袴」(和泉流) 野村萬斎

能「石橋」(観世流) 下平克宏 ほか

【チケット発売】11月下旬頃、HP等でお知らせします。

《お問い合わせ》 高崎芸術劇場チケットセンター [10:00~18:00] 電話 027-321-3900

<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/>

高崎芸術劇場
TAKASAKI CITY THEATRE